

緑化センターの桜並木の改良作業

京都府緑化センター(福知山市夜久野町)の桜並木(ヤエベニシダレサクラ)は、毎年4月には多くの花をつけてくれていましたが、桜の生長に伴い過密になり、近年は樹勢の衰えが目立ち、花数も減少してきました。

このため、抜き伐り等によって樹勢を回復させる桜並木改良作業を平成30年1月、2月に行ないました。
この改良作業により、約3年程度は花の数が少なくなりますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

なお、桜並木以外の桜105本(61種類)は例年どおり観ることが出来ます。

改良作業前の桜並木(平成29年4月15日)



改良作業実施後の状況

(平成30年3月時点)

並木の桜25本を1本毎に抜き伐り、残した14本中11本を強度剪定しました。



この木の強度剪定は次年度以降に行いますので、今年(H30年)は例年どおりの花を付ける見込みです。

幹の先端を伐採し、強度剪定した状況
(強度剪定により花を付ける枝が少なくなっています)



施肥の状況



桜並木改良作業の概要

- 1 改良作業の目的
桜並木(ヤエベニシダレサクラ)の樹勢の回復
- 2 改良作業前の概況
 - ・ 本数:25本(進入路の路側に沿って約7.5m間隔にそれぞれ12本、13本)
 - ・ 樹高:6.5m~10.1m
 - ・ 樹齡:36年生
- 3 改良作業の概要
 - ・ 桜並木を1本毎に抜き伐りし、間隔を約15.0mに拡大。
 - ・ 残した木の強度剪定。幹の先端も伐採し、高さを5~6mに抑止。
 - ・ 施肥。
- 4 作業時期
平成30年1月下旬~2月
- 5 期待される効果
改良作業によりシダレサクラ本来の樹形である枝の横への広がりが回復、低い位置で咲く花が増加。
- 6 改良作業に伴う当面の影響
伐採・剪定後、枝張りが戻るまで約3年程度は花数が減少。

平成30年3月
森林技術センター緑化センター